

## 2030 松崎プロジェクト

### ■概要

静岡大学未来社会デザイン機構では、2020 年度より松崎町、松崎町観光協会、伊豆半島ジオガイド協会の 4 者協働で、持続可能な地域づくりプロジェクト（2030 松崎プロジェクト）を推進している。このプロジェクトは、西伊豆の松崎町を中心とした地域で、子どもたちと住み続けるまちを共に作りつつ、新しい観光の可能性をめざしたものである。

このプロジェクトを特徴づけるキーワードは、「対話」「バックキャスト」「協働」である。

松崎町の未来に関心がある人ならだれにでも開かれた形で「対話」ワークショップを行い、そこで参加者の「思い」をとりまとめ、これを「言葉」して意識化できる形で共有していった。対話ワークショップを繰り返すことで参加者の意見を共有し、2030 年に向けた将来像や目標、そして活動を形成しているのが一つ目の特徴である。

2030 松崎プロジェクトのミッションは、「子どもたちと住み続けられる」持続可能な地域づくりである。そのためまず、2030 年にこうありたいという松崎の姿や状態を共同で描き出し、そこから、そうした松崎を実現するための活動を考えていくという「バックキャスト」アプローチをとったのが二つ目の特徴である。特に、まちの高校生や中学生らの夢や思いをまず言葉にし、それをまち全体として受け止めるというステップ等を通じて、まちの将来を担う次世代の思いを大切にすることは、このプロジェクトの力を入れている点である。

最後に、特定の組織や地域、年齢などに限定されず、松崎に関心のある多様なすべてのひとびとが参加し、対等な協働関係を築いている点がある。

本プロジェクトでは、静岡大学の教職員、学生、町外の市民なども加わって、「対話」をしながら 10 年後の松崎の望ましい未来の姿を共同で描いた（将来像、2030 松崎ゴール s）。そして、この未来を実現するための活動チーム（プロジェクトチーム）を立ちあげ、2021 年度から各チームが活動を開始・継続している。

### ■2030 松崎プロジェクトの 13 のゴール s

1. 松崎の自然・安らぎ・体験のオンリーワンが育ち、何度でも来たくなる「中毒性」のあるまちになっている。
2. 「ささる」観光を多様な世代がプロデュースし、多様な発信と PR を展開している。
3. エコ・ツーリズムとサステナブル・ツーリズムが実現している。
4. 地域の交通ネットワークと都市との相互アクセスが整備されている。
5. 地域の資源・資産のユニークな価値が発見され、活用されている。
6. 伝統の魅力が広く共有され、「祭り」などが継承されている。
7. のう（農）とりょう（漁・猟）の活動が受け継がれ、食べ物が新鮮でおいしい。
8. 地区・世代を超えた人間関係が守られている。
9. 子育てをしやすいまちである。
10. 多様な選択肢のなかから、やりがいのある仕事に就ける。

11. 都会的な飲食・買い物も楽しめる。
12. 高齢者になっても活躍できるまちである。
13. 三余塾の伝統が受け継がれ、市民たちの学び合いの場がある。

## ■プロジェクトチームの活動

現在は以下のゴールに関連するチーム活動が行われている。

### チーム3：ゴール3に対応したチーム

定期的なミーティングもおこない、これまでに長者ヶ原から岩科地区に通ずる古道踏査などを実施し、その模様は伊豆新聞に大きく掲載された。今後、池代地区のワサビツアーを計画している。

### チーム6：ゴール6に対応したチーム

中高生をメインに町内のなまこ壁清掃をおこなった。

### チーム7：ゴール7に対応したチーム

松崎高校近くの耕作放棄地を借り、農作物を育て、販売までおこなった。地域の先進農家への見学などもおこなった。

### チーム11：ゴール11に対応したチーム

定期的なオンラインミーティングをおこない、人が気軽に集まることのできる場としてオンラインカフェの実施を計画中。

そのほか、松崎町にとって重要な以下のテーマのスタディグループも立ち上げた。

エネルギー・スタディグループ：持続可能な地域社会を支えるエネルギーの安全的確保。

静岡ガス株式会社やエネルギーの専門家を招き、エネルギーについてのワークショップおよび講演会を開催した。

防災スタディグループ：防災と生活のバランスがとれた、地域と連携した防災。